

国立アイヌ民族博物館 (ウポイ(民族共生象徴空間)内) 様

新築



| 所在地 | 北海道白老郡白老町 | 竣工 | 2020年7月 | 用途 | 冷暖房
 | 熱源 | 地中熱・地下水熱
 | 設備仕様 | 水冷式ヒートポンプチラー 180馬力
 | 補助金 | 文化庁(国交省へ支出委任)

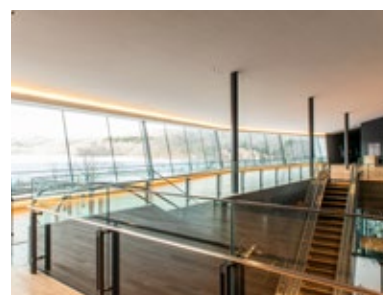


外観【提供:(公財)アイヌ民族文化財団】

当施設は、2020年7月、アイヌの歴史や文化の継承・復興・創造等の拠点となるナショナルセンターとして白老町ポロト湖畔に誕生しました。10㍻の広い敷地には「体験学習館」「体験交流ホール」等からなる「国立民族共生公園」と「国立アイヌ民族博物館」が配置されています。国立アイヌ民族博物館では当初より、自然エネルギーや環境に配慮した技術を活用する設計方針が進められました。

アイヌ民族には「自然や環境とともに生きる(自然との共生)」の生活様式が脈々と流れており、チセはまさしく地中熱を利用した住居でした。併せて、博物館の空調には、取

蔵品の劣化を防ぐために「恒温・恒湿」が求められます。これを両立する最適なシステムとして採用されたのが、地中熱利用ヒートポンプシステムです。敷地内に埋設された熱交換井(ボアホール) 80㍻×36本と井水から採熱し、弊社の地中熱利用水冷式ヒートポンプ(180馬力)を介して、冷水・温水の同時供給で空調を行っています。この地中熱利用によって空調全体の25%を賄う設計となっています。



パンラミックロビー【提供:(公財)アイヌ民族文化財団】



熱源系統図



水冷式ヒートポンプチラー



展示風景【提供:(公財)アイヌ民族文化財団】

地中熱

地下水熱

教育・文化スポーツ施設